



# かわいっ子

河合小だより

令和3年6月

「強く 正しく 温かく」－他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成－

文責：学校長



## 「共創」について考える～佐々木正氏のことば～

吉岡 優

「いいかい、君たち。分からなければ聞けばいい。持っていないなら借りればいい。逆に聞かれたら教えるべきだし、持っているものは与えるべきだ。人間一人でできることなど高が知れている。技術の世界はみんなで共に創る『共創』が肝心だ。」  
(佐々木正氏：元シャープ副社長 工学博士)



佐々木正（ささきただし）氏は、シャープ（SHARP）を世界的な電機メーカーに育てたことで知られ、スティーブ・ジョブズ氏（Apple）、松下幸之助氏（Panasonic）、李健熙氏（SAMSUNG）、そして孫正義氏（Softbank）——。多くの人々が憧れた伝説のエンジニアです。これはそんな彼が1964年に当時の早川電機に転入社早々に述べた言葉だといわれます。『共創』ということばはすでに50年以上前に定義されていたんですね。そして、河合小中学校スクールガイドにも明記された「理数教育を中核に」小中一貫教育を推進するわが校の教育目標の原点が実はここにあったようです。

### 【共創でやるべきこと】（要約）

- ① 意識を一つにする…所属する、あるいは関係するすべての人の気持ちを大切にする。
- ② 強固な協力関係を築く…お互いにアイデアを共有し、互いに認め合い、尊重し合う。
- ③ プロトタイプ（原型）づくり…原型からのアイデアをとにかく具体化することに努める。
- ④ 破壊と創造…今までの実績等を既成事実としてチームに押し付けないこと。
- ⑤ グローバルな視点…オンライン・コミュニティを継続的に活性化させる。

【A Co-creation Primer】 February 28, 2011, Stefan Stern

学習指導要領が改正され、小学校では2020年度から、中学校では2021年度からの「新しい学び」がすでに始まっています。すなわち、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」という3つの視点で教育活動を推進していくことが学校に求められているのです。詳しくは[文部科学省ホームページ](#)をご覧ください。そして、河合小中の小中一貫教育の基本理念である「共創」と令和の「新しい学び」のベストミックスをめざし、本年度も小中チーム一丸となって教育活動に取り組んでいきます。

## 「元気アップタイム」で体をつくる

令和3年度も「元気アップタイム」を金曜日の朝に実施します。目的は「様々な動きを通して、①体幹を鍛える、②筋力を鍛える、③跳躍力を高める、④投能力を高める」としています。

種目を紹介します。運動場では「なわとび、竹馬、一輪車、的あて」、体育館では「サーキット（スティック、トランポリン、馬跳び、あざらし）」です。



また、全学年縦割り班で行うことで、仲間づくりも活動の中でめざしています。初日、すべての活動において、とても楽しそうに、生き生きと取り組んでいました。1年間続けることで、一人一人の体力を向上させ、健康な体の育成をめざします。

## 新型コロナウイルス感染拡大への取り組み

現在本県に発出中の緊急事態宣言。報道では6月20日までが期限となりそうです。引き続き「**学校や家庭に持ち込まない、学校や家庭で広げない**」を基本としつつ、取り組む必要があります。少し窮屈ではありますが、「重症化リスク（特に高齢者・基礎疾患のある方等）」の話を聞くとやはり「**大切な人の命を守る**」という観点が重要と考えます。

県の通知から、学校内で生じた感染の疑いのある要因のうち、特にマスクの着用が疎かになる下記の場面について再度、[感染防止対策の徹底](#)が必要と思われます。学校でも指導しますが、ご家庭でもお声がけ願えれば幸いです。（おしゃべりを控える、距離を取る等）



【マスクの着用が疎かになる場面】（夏に向け、熱中症対策との両立も重要）

(1) 登下校時の会話時、業間・昼休みなどの休み時間等の雑談や更衣時

(2) 学習塾など習い事の行き帰り時

（兵庫県教委 5/10 付通知）

一方で、教育活動が消極的とならないよう、安全安心のもと、昨年度からの創意工夫（「河合小スタイル」）をさらに活かしながら取り組むことも併せてお伝えしておきます。